

インターバンクの声（2017 年 2 月 20 日）

17 日(金)の東京市場のドル円は、何とか 113 円台前半で前日のニューヨーク市場から続いた円買い・ドル売りの流れを喰い止めていたが、ロンドン市場が始まると再び円買いが優勢になった。

米長期金利の低下や欧州株の下落が影響したと思われるが、週明け月曜日の米国市場 3 連休が控えているとあって、早めにポジションを決済する人が多かったようだ。

アジア株の下落に欧州株の下落が続き、仏大統領選などの欧州政治の先行き不安もあって、ニューヨーク市場の序盤もリスク回避によって安全資産の円買いが 112 円 60 銭台まで進んだ。

さすがにその後は市場が閑散になり始めたところで円を売り戻す動きも見られたが、結局 113 円台には戻せずにニューヨーク市場を終えている。週明けの欧州市場でユーロが 1.05ドルを割り込んでいくような売りでも出れば別だが、本格的に市場が動き出すのは火曜日のニューヨーク市場まで待たなければならず、今日、明日は 113 円を中心に限られたレンジ内での取引が続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。